

◎ 奈良・人と自然の会

〈わたしたちは大和の自然を愛します〉



盧舎那仏讃歌とスピリチュアル

大石門三

漆黒の空には星瞬き、地にはコホロギの音が、一瞬澄んだ空気を切り開くタムタムの一打、二月堂の梵鐘かと戸惑う。ここは東大寺大仏さんの御前、六千有余の観客を前に讃歌は十月十九日に演じられた。それは東大寺世界遺産登録十周年記念と平城遷都千三百年記念プレコンサートとして実行委員会、大仏奉賛会、日本ユネスコ教会など多くの人達に支えられて。今から 1250 年前、聖武天皇は人だけでなく動物も植物も全ての生き物が栄える事を願って、大仏さま盧舎那仏を造られた。この讃歌は大仏殿昭和大修理落慶大法要を記念した式典歌で、今から 28 年前にこの前庭で奉納された。シルクロード風の前奏に始まり、力強い声明的合唱が入り、「大仏讃歌、開眼供養回顧、笛の菩薩、そうして最後は壮大なコーラル」が合唱管弦楽とともに、宙に届けよと奏された。その唱の一節「大仏は全知全能 宿命の生老病死 人の世の空無を宣らす 奥深し華嚴の論し おろがめば心はなごむ 有難や大ききみほとけ 盧舎那仏 救世のみすがた」。作詞者堀口大学はフランス文学者として有名であるが、多感な青年期を過ごした西欧世界の宗教的雰囲気を読んでか、感性豊かに天平文化の絵巻物が詩の中に描きだされている。作曲者團伊玖磨は「夕鶴、小さな秋見つけた、花の街」など数多くの曲で親しまれているが、好んで用いたハ長調の明るい宇宙的旋律で書き上げ、心穏やかに響き渡る。再度その一節「思い起そう今日のこの 所も同じ広前に いと荘厳に咲き出た 天平文化の絢爛を 思い起そう今日のこの 所も同じなかに 弥陀の浄土もさながらに 満ちて溢れた樂の音を (反歌) 今日しもよ大仏殿の広前に 法のみ国の花園を見る」

今を去る、天平勝宝四年卯月九日大仏殿の広前には、郷から国、遠く異郷の諸人達が開眼供養を、心を込め万感の思いで盛大に祝った事であろう。今それを思い起こす時、静い事の多さ無念さに心痛む。ユネスコ憲章の前文には「戦争は 人の心の中で生まれるものであるから 人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」。そうして具体的には、「飢餓や病気に苦しむ人々のために一杯のスプーン、人類の大切な遺産を引き継いでいく活動、世界寺子屋運動、青少年育成活動」などです。まさに聖武天皇の皇后、光明皇后は福祉施設に当たる悲田院や施薬院を建て、人々のために尽くされたのです。静いのない平穏平和で健康な世の中を願って、昔も今も変わらぬ普遍の願望でしょう。それにつけてもパレスチナ、イラク、アフリカ等で絶望的な生活を強いられている人々がいることは、ユネスコ精神への参画の重要性を切実に問うている事でしょうか。

所で健康とは、「身体的、精神的、社会的にバランスよく揃った状態」とWHOは定義していますが、101回WHO執行政事会において、上記に「生きている意味、生きがい等の追求が重要との立場から、スピリチュアルとダイナミック」を加える提案がイスラム文化圏からなされ、結果的には採択されていないが、当時このスピリチュアルをどう日本語に訳するか問題になった。一般的には「靈的とか生きがい」などと表現されていますが、提案のその思想背景には、イスラム教が人々の精神生活や日常行動面の多岐にわたる指導原理となっており、医学的にも伝統医学への回帰が起こっている。またこのスピリチュアルは人間の尊厳の確保や、生活の質中身を考える為に必要な本質的なもので、宗教を超越したものであると。このスピリチュアリティはラテン語のスピリット、風息から出た言葉で神秘的なものを指した。さらに考察すると、不思議な事に遙か遠く遡り、インダス文明では「心」を対象として「心を制御する」ことに関心が持たれ、もう一つインド世界の思想根幹が「輪廻転生」であり、その考えの原因は行為そのもの、その行為を生み出しているのは心に生じた思念であると。その思念は心の働きを静める対象として息「呼吸」を発見した。「出息入息念」と瞑想していると心は穏やかになっていくと。さらにお釈迦さまはこの考えをより深めていくのだが、翻って科学万能で成果中心の競争社会の現代、この靈性瞑想、念ずる事をどのように考えるのでしょうか。歌っている後ろでは、慈愛深き大仏さまが「息が出た 息が入った」と永遠に念じておられるのでしょうか。

10月例会【大和三山と藤原宮跡】

～畝傍山、香具山、耳成山を訪ね古代ロマンに浸る～



日時：10月26日（水）近鉄橿原神宮前駅 10時集合

行程：橿原神宮前駅—畝傍山—香具山—藤原宮跡—耳成山—大和八木駅

参加者：三木、山田、高橋、鈴木、小嶺、斎藤、勝田、川井、弓場、吉村、豊田、杉本、古川、竹本、板橋、阿部、岸谷夫妻、橋本、佐々木、小森、志水、宮澤、明石、林 計25名

「雨を呼ぶ女」の異名を持つ私にとって空模様は最大の関心事、朝、顔を出した太陽にほっとし、喜び勇んで橿原神宮駅前に向う。10時集合、総勢25名の参加者、簡単に自己紹介をして出発。橿原神宮で植物に詳しい高橋さんから森林の話しを聞き、いよいよ畝傍山に入る。30分余汗し途中歌碑の前で文学・歴史担当の川井さんに説明を受け、山頂に辿り着く。樹木が茂り年々見晴らしが悪くなるが木の隙間から眼下の風景を楽しむ。小休止後、弓場さんの先導で別ルートにて下山し元薬師寺に向う。ホテイアオイが一部だがまだ咲いてくれていた。紀寺跡で昼食を摂り、1時出発、予想していた通りソフトクリーム休憩が入る。みなさんの幸せそうなお顔！急坂を少し登ればもう香具山山頂だ。小休止、滑りやすい下山路をゆっくり歩き天香山神社に着く。次は藤原京跡へ、地道や込み入った路地をくねくねと曲がり到着。サクラタデ、シロバナサクラタデの大群落に出会う。藤原京跡の説明を受けひと休み後、マガモが沢山泳いでいる醍醐池の畔を歩き、途中弓場さんから周囲を取り巻く山々の解説を受け耳成山に向う。難なく元気に全員登り終え、山頂で三山無事踏破を喜び合う。高橋さんに岩石の話しをして頂き、下山、大和八木駅に行く。途中、文化会館の広場で終わりの会をして解散となる。天候に恵まれ怪我もなく全員が三山に登れてよかった。みなさんお疲れ様でした。不手際、不行き届きの点が多々あった事をお詫びします。お世話になった高橋さん、川井さん、弓場さん、そして丁寧な資料を作って下さった明石さんに感謝しつつ帰路に着く。 (担当、明石、林)

10月例会「大和三山と藤原京」に参加して

シニア自然大学15期風組3班 杉本 登

秋晴れのいいお天気の日、畝傍山、香具山、耳成山と藤原京の古跡巡りのハイキングに参加した。奈良・人と自然の会に寄せて頂くのは9月の平城山の里山に続いて2回目である。大和三山は小高い山に登れば奈良盆地のどこからでも見ることができ、古代から万葉集にも歌われた有名な山である。標高は200m以下の山というより小高い丘といったところであろうか。

橿原神宮を抜けてまずは畝傍山に登る、15分程で頂上に着く。頂上から少し下りた辺りに万葉集の歌が一首、中大兄皇子御製「香具山は 畝火ををしと耳梨と 相あらそひき 神代より かくにあるらし 古昔も しかにあれこそ うつせみも 孀をあらそふらしき」。この歌を見て私は中大兄皇子と大海人皇子と額田王を連想してしまった。というのもその前の日曜日に桜井から忍坂の道を歩いて額田王終焉の地といわれる栗原寺に行ったからである。この著名な万葉の歌人は中大兄と大海人の二人の皇子に愛された後、栗原寺で余生を過ごしたという。こんな古代のロマンにひたりながら次の香具山に向かう。途中で木や草の名前を教えてもらうのだが少しも記憶に留まらぬのは年のせいかな、それとも覚える気がないからか。

香具山から下りて紀寺跡（紀氏の氏寺）で昼食を取る、広い原っぱに座って食べる弁当の味は格別であった。耳成山に向かう途中で、某女が突然走り出したと思ったら地場牛乳製ソフトクリームの看板。皆でソフトクリームを食べながら小休止する。少し歩いて広い野原に出たと思ったら、ここが藤原京跡で、持統天皇から元正天皇までの都であった。ここから最後の耳成山まではもう少しである、耳成山の麓で焼き芋を食べながら歩く高校生達に会った。聞くと地元の畝傍高校生であった、さすがに県下一の進学校、茶髪の子はだれもいなかった。耳成山の頂上で本日の行程終了、大和三山を踏破というほどの山でもないが、約14キロの道のりであった。奈良・人と自然の会の皆様、お世話になりました。

11月例会 「吉野川源流を探る」 実施記録

テーマ： 日本最古の人工林「下多古」と国指定天然記念物「トガサワラの谷」を訪ねる
日程： 11月10日（月）～11日（火） 一泊二日
参加者： 24名（男子15名、女子9名 内ビジター 2名）
宿泊： 入之波温泉 五色湯
ガイド： 川上村地域振興課 森口主任、 森と水の源流館 木村学芸員
実施状況： 第一日

- 10:30 大和上市駅より旅館のマイクロバスで出発。
11:00 森と水の源流館にて辻谷館長の講義「森を守り水を守る」。
500年間、樹を植え山で生きてきた吉野林業の歴史と、高齢化・過疎化・後継者難に悩む現状を語る。大滝ダム建設を契機に「水源地の村」としての行き方を指向しつつ、不安と模索が続く。
13:00 下多古村有林へ。300年以上の杉・檜が残る吉野林業歴史の生き証人。最近伐採された切株があり、見事な年輪に感動する。
15:30 入之波温泉 五色の湯に到着。会員の高橋弘志さんから、トガサワラを含む「襲速紀（ソハヤキ）植生群」の解説を受ける。
18:00 夕食懇親会。阿部会長の挨拶のあと会食と懇願。新旧会員がカラオケでのどを競い、親睦ムードが盛上る。

第二日

- 8:30 マイクロバスにて出発。秋色の天然林を三之公川沿いに遡る。
8:50 「明神出会」で下車。山ノ神イワナガヒメにお参りして山に入る。念願のトガサワラと対面し、水源の森にふさわしい清流沿いのルートを遡上しながら観察。源流付近では、多種類のコケ、多くの着生植物が豊かな生態系を形成する原始林の佇まいを満喫する。
12:00 明神の滝へ到着。高さ50mほどの優美な姿は旅の圧巻、何時までも見飽きさせない。滝の前には直径1mもあるトガサワラの倒木が横たわり迫力満点。ここで昼食休憩、記念写真を撮る。
14:00 下山。バスにて杉の湯へ。五色の湯さんの手配で汗を流す。
15:30 ご当地自慢の「大滝茶屋の柿の葉鮎」を土産に帰途に付く。

感想

川上村の適切な対応と、参加者のご協力で極めてスムーズに計画通り行程を終えることが出来たことにまず感謝したい。何とか天気にも恵まれ、秋酣の川上村の自然の景色を楽しみつつ、貴重な原始林の雰囲気にも浸ることが出来た。他面、500年の吉野林業の歴史を転換すべく、今この村が目指している「水源地の村」づくりの構想に共感しつつも、山と人とは抱えている問題の深刻さ、その広がり大きさ、根の深さについて、改めて考えさせられた旅でもあった。（古川祐司 記）



〈竜田公園〉



11月例会「吉野川源流を探る」に参加して

2008年11月10日(月)～11日(火)

横井 由美子

11/10(月) 10:30 近鉄・大和上市駅に集合。男性15人女性9人合計24人の参加であった。ビジターで‘森と海の自然科’より児玉さんが参加。早速マイクロバスに乗り込み、最初の訪問地である川上村「森と水の源流館」に向う。「源流館」までの20分ほどバスは吉野川沿いに走り、針葉樹の緑と広葉樹の黄紅におおわれた対岸の山々が目を楽しませてくれる。同時に眼下の建設中大滝ダムにも目を奪われる。

11:00 「森と水の源流館」では迫力ある大スクリーン映像と巨大ジオラマで水源地の森の不思議を体験し、辻谷達雄(タッチャン)館長より日本三大人工美林を育林してきた川上村の歴史と概要 吉野林業の現状とこれからについてお話を聞く。その後、そろって大階段で「すぎもと弁当」をおいしくいただく。

13:00 下多古村有林の山道を歩き、まさに‘歴史の証人’中の証人、樹齢390年の吉野杉の根元で記念撮影。辻谷館長のお話を聞き下多古の森を見、色々な思いを胸に下山する。入之波温泉までの車窓に、緑の勝った紅葉の山々がこれまでとはまたずい分と違って見えてくる。

15:30 入之波温泉「五色湯」に到着。しばしの休憩の後、高橋さんから明日の「水源地の森」観察をより意義あるものにするために‘ソハヤキ 襲速紀 植物’トガサワラ ツガ コメツガ サワラなどの説明を受ける。その後、露天風呂を楽しみ、山里の味に舌鼓をうち、カラオケで大いに盛り上がる。深夜、露天風呂で見た月齢14の雲間の月は心にしみた。

11/11(火) 8:30 入之波温泉出発。登山口にある山ノ神の祠に手を合わす。いよいよ水源地の森へ。今日はシダ・コケ専門の木村さんがガイド、次々と名前の説明をしていただく。キジノシダ(原始的で栄養葉と胞子葉がある) トガサワラ(葉がツガ似 材はサワラ似) コウヤマキ シヤクナゲ ヒノキゴケ(風通しよし) オオスギゴケ(風通しよし) コウヤコケ シノブ トウゲシバ カンスゲ スギエダダケ(可食 スギの落枝のみにつく) エダツヤゴケ サワグルミ キカラスウリ オオカサゴケ アマゴブール(水温6℃ 鹿の地はぎと5年前の台風により土砂で埋まるが復元 森が元気だと生き物を育む) ナラタケ(の菌糸は山姥の髪の毛生きている樹木にもついている 吉野の桜を枯らすのはナラタケのせいか??) 原生林は着生植物が豊か(単位面積当たりの生物の数 生物の多様性が見られる) ザトウムシ(千と千尋の釜爺) イヌブナ(葉裏に毛あり) コウヤノマンネンゴケ シオジ(白い幹 複葉対生) 明神の滝でお弁当をいただき集合写真を撮る。大きなトガサワラの倒木を乗り越え帰路につく。岩の上に木が育つのは?(コケのベッド 遷移の話 コケは虫に食われない) サカキ・ヒサカキ・シキミ(照葉樹林の文化 消毒疫病防止として残してきた) ツガ(葉のついた枝を上から押すと平ら) コメツガ(枝を上から押すと丸) イワタバコ カンアオイ ... などなど 時折日差しがあり汗はかくことなく山歩きには最適な一日であった。参加者全員無事に予定よりも早く下山でき、杉の湯温泉に入る。柿の葉寿司をお土産に大和上市駅で解散する。15:30

二日間、川上村の深まる秋を堪能。また季節を変えて歩きたいと思う。

- ・五百年 育林続ける吉野村この地も求む若い担い手
- ・川上村(かわかみ)の秋をそっくり閉じ込めた柿の葉寿司をお土産にする
- ・湯けむりのなかで眺める雨天の雲間の月は月齢十四

ならやまプロジェクト・レポート 20年 11月

10月25日(土) 晴 佐保台小学校元気クラブ、シ大実習生、奈良コープ 参加者87名
念願の地元佐保台小学校元気クラブとの交流が実現した。竹工作、自然観察、芋掘りを体験するイベントに、校長先生と役員・保護者に付添われて幼・小の42名が参加しました。

10時30分、手始めに竹スコップ作りを指導。次いで、苦心のスコップを手に一斉にサツマイモ掘りを開始。土の中から赤いナルトキントキが顔を出せば、そこそこで歓声が上がります。1時間程度で芋掘りは終了し、昼食には、勿論ならやま名物のブタ汁のサービス。

午後からは、竹とんぼ作りに挑戦。予め用意された竹の羽根をサンドペーパーで軽く薄く仕上げる。シニア自然大学の教育実習生が作ってくれたカタパルトにセットすれば準備OK。手伝った実習生も驚くほど良く飛ぶ。全員参加のトンボのオリンピックで滞空時間を競う。

午後のおやつは、取れたばかりの焼き芋。子供たちも保護者も校長先生もニコニコ顔で頬張っていました。終了に当たり、西村校長先生から丁寧なお礼の言葉をいただき、当会に対してご寄付も頂戴しました。中心になって世話いただいた地元出身の会員(水本さん、平井ご夫妻、塩本さん)の皆さん、本当にご苦労様でした。

本日は実習生11名、菜の花プロジェクトのならコープのメンバー8名、会員21名、元気クラブを合わせて、計87名の大盛会となりました。 午後3時30分 解散

10月26日(日) 雨のち晴 黒髪山自然塾の芋掘り体験 参加者83名

昨年に続いて、黒髪山自然塾のカリキュラムのうち、竹工作と芋掘り体験のイベントに協力。当方からのスタッフ14名が参加、児童61名、世話役5名、奈良市教育関係者3名と、昨日に続く大人数のイベントとなる。

10時集合、8班の体制で開始。自然塾で訓練されているので、指導に対してスムーズに反応する。竹スコップ作りも全員が特に支障なく完了し、一斉に芋掘りにかかる。蔓の片付け、石ころ拾いをきちんと済ませて、自分が掘ったサツマイモを手に黒髪山CFへ引き揚げる(12:00)。

黒髪山CFでは、当会メンバーがブタ汁を準備、他方、ならやまBCでは焼き芋作りと同時に並行で進行する。ブタ汁、焼き芋ともに大好評と、塾責任者の境さんから謝意が表され、同行した奈良市教育関係者からも好意ある発言があり、新しい展開も期待できそうである。

10月31日(金) B地区笹藪刈り DE山地視察路整備準備 畑整備 参加者9人

中畑・鳥井・平井各氏によるB地区笹藪の刈払いが一段と進む。それに合わせて隠れていた放棄ゴミが続々出てくる。暫くは見苦しいが道端に集積して、当局の早い回収を待つ。

ナスの最終撤去が完了。川井クラブ会長は、今年は50点の成績と謙虚に自己評価されるが、来シーズンを目指して、研究も着々進んでいるとか。再チャレンジの意欲は十分とお見受けしました。同好の氏のご参加を期待しています。意欲ある方、多数お申し出あれ。

11月6日(木) 曇りのち晴 シ大実習生受入れ5名、タマネギ植付け、 参加者23名

シ大教育実習のカリキュラムが固まってきた。オリエンテーション、樹木調査、間伐実習、間伐材活用と充実した内容だが、最後の里山散策が最人気とは、やはりそうかとも思う。

昨年好評だったタマネギ苗を1800本植付ける。灌水設備が出来たので水遣りもスムーズに捗る。今年は事前に土作りをしておいたので、成果か楽しみである。

(古川祐司 記)

ならやま里山林自然観察レポート



11月6日(木)

林 令子

イヌタデに加えイヌホウズキが増えてきました。ヨメナもチラホラ咲いていました。ヒヨドリジョウゴも赤い実を沢山付けています。畑ではフジバカマがまだ頑張っています。カワラナデシコは今が見頃です。今日はみんなで柿を収穫しました。干し柿、合わせ柿、柿酢と用途はさまざまのようです。

「ならやま里山林プロジェクト—黒髪山自然熟芋ほり大会」 大石 門三

10月26日(日) 終日小雨 参加者 51名 スタッフ 5名 大会スタッフ 15名 他奈良市青少年指導課 3名 9:00~14:30 終了

午前には100%の雨予想でやきもきするも、本日の主催は黒髪山自然熟で当会は場所提供と作業補助手伝いということであったが、雨の中決行。竹のスコップ作りから始め、待望のサツマイモ掘り、子達の歓声、あちこちから上がる。芋収納、芋蔓整理、小石拾い、と一応の農作業体験を無事終了し、CFへ帰り、美味しい豚汁焼き芋に舌鼓、寒いからか3杯4杯とお代わりの連続、「おいもさんはどうして出来るの？」を子達といっしょに考え、問答する。受け答えも活発であり、頼もしい子達、大いに我々も元気を貰った一日でした。環境教育の原点は里山や田んぼであり、子どもの目線と五感を使っての体験、いい思い出になったであろうか。寒い雨の中ご苦労様でした。担当：西谷、大石



蘇れ森たちよ

谷川萬太郎

| | |
|-------------------|----------------------|
| 周りを囲まれた山々や大地に支えられ | 幾百年も培われた生きる強さを学び |
| 照らす日の光を浴び蒼い空を仰いで | 情けのふところ深い豊かな広い心を養い |
| そして止めどなく流れる川のように | 先を急ぐ時節の流れに追いつがるようにして |
| 今こそ蘇らむとする君をそこに見た | その青々とて聳える雄姿と優美な出で立ち |
| 哀しみで涙が溢れる時は白い雲を見て | 季節の花や虫たちに優しい声をかけ乍ら |
| 自然を友として森の水車を廻すように | 飽きることなくその年輪を刻み続けて来たね |

瞼を閉じて昔を偲べば幼かったあの頃の幻が 未来に向かってひたすら育んでいたとは
明るく笑う木漏れ日さえも届かぬままに 雨で身体を濡らしても明日への望みを信じた
人の吐く息や河のせせらぎに紛れる鳥の声 風の囁きさえも呑み込む神が棲む静寂に
ほら耳を澄ましてごらん小さな胸の鼓動に 山や森たちの喜びが寄せては返しこだまする
森の木立に見を寄せ耳を軟てれば踏みしめる落ち葉のきしみが足に優しく語りかけて来る
振り向けば明日の足跡がまた来いよと言いたげに遠くからいつまでも手を振っていたね

柳生の与作たち

川井 秀夫



♪ ハイハイホー ハイハイホー 与作は木を伐る・・・。

本会の社会活動の原点となった場所がある。柳生街道 忍辱山 円成寺から滝坂の道に少し入ると、国有林である針葉樹の二次林が広がる。

04年。寺田 正博氏の尽力により、中国森林管理局の許諾を得て、間伐・除伐・林内整備が始まる。樹齢5年（1年は年輪10年に相当）、樹高10数米の伐倒に緊張感のなか、やったとばかり爽快感が走る。後の処理も大変、枝葉を落とし、玉切り作業に汗を流す。

寺田氏とは、設立間もない頃助力を仰ぎ、二期四年間幹事として頑張ってもらった。今なほ陰の力としてサポートして頂いている。

髭がトレードマークで私は親しみを込めて‘寺さん、とお呼びするが、なかなかの勉強家で森林インストラクター資格を持ち、植物・野鳥に造詣が深く、最近は仏画に傾倒され展示会に出品されるなど、そのマルチぶりに敬服している。また斗酒辞さず、よく弓場氏らと酒席を共にしたが、常に議論酒になることが多く、会の将来について熱っぽく語り合った事も懐かしい。

寡黙な不言実行型の明石嘉一郎氏（現会計）。長身で山男のスタイルが板につく。道具管理・運搬を担って頂いている中畑 進氏。生協さんとのご縁で参画して頂いた竹本 雅昭氏。この方とは、私とペアで作業中倒木の方向を誤り、あわや関電の電線を切断するミスを犯す場面があり、冷汗三斗の思いをした事が印象に残る。

小森 清道 氏。哲學家を思わす雰囲気があり、なかなかの理論家。庭木の剪定も堪能とか、昨年外科手術をされたが、見事に現場復帰。信念の人と感じている。

女性陣では守口 京子さん（現幹事）に頑張ってもらっている。正に女闘士の感、小柄な体のどこにエネルギッシュな行動力があるのか、頭が下がる思いである。

炊事では弓場 厚次氏のフカヒレ卵入りスープが定番で、冷えた体を癒して呉れる。阿部 和生氏（現会長）の指導力。私などは自称 遊撃手。新戦力の板橋 宏晶氏。多士済々の中核メンバーが今日も鋸と斧を振る。

国有林の荒廃を嘆く声がしきりである。日本の森林帯に占める面積は21%と言われている。我々の活動は琵琶湖の水をバケツに一杯浄化するようなものだが、この活動の輪が広がり、行政・企業・市民の良心を動かす端緒になればと願っている。

五年目に入って、漸く林内も明るくなり、下草が生え、広葉樹が萌芽し、野鳥が囀り、小動物が棲む、所謂生物多様性の世界が顕在化する日を夢みたいものである。

残念ながら、我々は理想の姿を見る事は出来ないが、次の世代に継承され、日本の森林が本来の機能が蘇る日を信じたい。森林は生命の源である水の揺り籠だから。

与作たちよ。まだまだ頑張ろう。

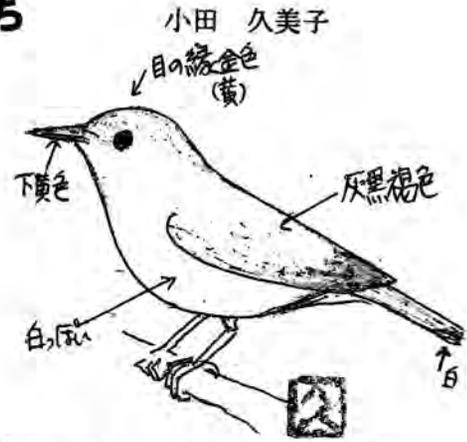
次回は自然工作グループを紹介します。

郷愁を誘う鳥 「カッチョの肝」たち

「今年も庭にカッチョが来ている」と電話。カッチョは戦前派が子供の時から親しんできた鳥の呼び名。その友人たちに「カッチョ」はどれかと試しに鳥図鑑なるものを見せてみた。すると、詳しいと自認していた筈の彼らの指は、カッチョもどきの鳥たちが横向きに勢揃いしているの見て、ツグミ科の5・6種の間を迷った挙句、アカハラをカッチョのみ、シロハラを早と合意した。つい

で「ヒヨドリ一升、カッチョは二升」とカッチョを炊き込んだ飯の美味かったことや「カッチョワナ」について楽しそうに話してくれた。

上は『鳥ごよみ』から。。。 貧しくても大自然の中で大らかに育った子供たちでした。「カッカッ」と鳴くから「カッチョ」だとか、ひっくるめてカッチョとされているツグミの仲間のシロハラはその名の通りお腹が白い。冬シベリア東部から渡って来て、時折人家の庭にも訪ねてくれますが、気弱なシロハラは、エサ台を我がもの顔で占領する、テーブルマナーの悪い「ひんしゆくヒヨ」たちの食事が終わるのを静かに待っています。その様子は九州北部の山村に残る小心者の代名詞「カッチョの肝」そのものなのです。餌台ではヒヨドリさんは誰よりも最強です。あなたは「ひんしゆくヒヨ」or「カッチョの肝」



オレ 地味だけど、よく見ると目がイヨ〜

自然俳句欄

三山のよき距たりや大花野 秀夫

10月例会。藤原京近く、秋草の彩花が揺れる。遠き時代への供華であろうか。

遠山に色葉の衣吉野杉 秀夫

11月例会。吉野奥山、溪流沿ひは、秋の匂。幽谷の大自然に酔う。



★ミノムシふたたび その1 ミノムシに丸裸にされたヤマモモはもう冬だというのに春のように緑の葉をあちこち出し始めました。植物の生命力の強さに脱帽です！

その2 ミノムシは別名「鬼の子」といい 日本では昔からミノムシを鬼の捨て子で秋風の吹く頃になると「父よ 父よ」と父親を慕って鳴くというそうです。枕草子第四十一段「虫は」にその文があるんですって。

(齋藤)

★ 10/26ジョウビタキ初見(昨年 10/23)・11/2シメ初見(昨年 12/16)ひっそりしているのでイカルに比べ見つけにくい鳥です。(落葉が進めば、そのコロコロした姿で見つけやすくなります)・イカルも鳴き出しました。・ツグミ初見11/13(昨年 11/6)いずれも竜田川堂山の竜田観音前にて。紅葉もきれいです。寒いですが、散策が楽しい時期です。

・この冬一番寒かった19日(金剛山に初雪の日)、竜田公園の三室山近くの出来事。ハト(ドバト? 飼育ハト?)が30羽くらいが輪を描いていました。その中に1羽違う飛び方の鳥が…よく見るとチョウゲンボウです。いつものようにハトたちの群れに突っ込んでいきました。そのうち???よく見ると、ハトたちが塊となりチョウゲンボウを追いかけています。何度も、何度も…そのうちにチョウゲンボウが逃げて行きました。弱いハトたちでも団結すれば猛禽類のチョウゲンボウを追い返すのですね。(勝田)



* 原則：前日午後7時前のNHK天気予報で降水確率(午前) 60%以上の場合は中止 *

『ならやま里山林プロジェクト12月の予定』

このプロジェクトは三井物産環境基金の助成を受けています

場所 奈良市奈良坂町・佐紀町の県有林(JR平城山駅下車徒歩10分)

—「ならやま会館」前の道路(ならやま大通り)の南側に広がる林地—

(案内図が入用の方は、下記問合せ先までご連絡下さい)

日時 12月4日(木) ならやまの日 椎茸ホダ木作り

12月6日(土) 一般活動・リース作り

12月11日(木) 芋煮会(マイカーは自粛してください)・教育実習生受入れ

12月20日(土) 一般活動・サトイモ掘り

いずれも 9時集合 3時終了の予定

(当面の間、火、金 9時～11時 ならやま当番2名が現場に駐在します)

集合 現地ベースキャンプ地

交通 ①近鉄奈良駅 バス13乗場8:23発 高の原行

②近鉄高の原駅 バス1番乗場8:30発 JR奈良行

①②とも佐保台西口、または平城大橋下車 徒歩約7分

携行品 弁当、飲み物、軍手 (作業用具は現地に用意しています)

活動内容

- ・里山林整備、環境整備、植生調査、放置田跡の笹刈、花木植栽等の景観形成
- 畑作業は、除草、秋冬野菜植付け、有機栽培のための堆肥作り

景観クリエーター募集

- ・里山にふさわしい景観を作りたいと思っています。花、樹木の植栽に関心のある方を募集します。また、花壇・山野草類の育成についてアイデアや苗をご提供下さい。また果樹の苗なども寄贈いただければ幸いです。

(申込み・問合せ先： 古川

小嶺

「ならやまの鳥たち」の調査 皆さんのご参加をお待ちしています!

～野鳥の会奈良支部・川瀬支部長のご指導による～

☆日程： 12月8日(月) <毎月第2月曜日>

★集合時間・場所： 8時50分 ならやま駐車場 *9時出発 11時ごろ解散

☆観察場所： 里山林散策路内の定点及び定線観察

★持ち物： 双眼鏡・飲み物・歩きやすい服装(弁当・雨具は適宜)

☆小雨決行。判断の難しい時は担当者に問い合わせして下さい。中止の時は次週に順延。

★担当者： 小田

菊川



〈平城山の柿〉

【奈良忍辱山森林整備作業】

場 所： 奈良市忍辱町 国有林 駐車場より徒歩10分東海自然歩道沿いの二次林。

集合場所： 国道369号線一忍辱山町自治会共有地(池のそば) 駐車場
(奈良交通バス停 忍辱山円成寺口下車 少し戻る南川側)

日 時： 12月10日(水) 予備日 12月17日(水)。 1月16日(金)、予27日。

【集合時間10:15より、終了予定Pm3:00ころ】

交 通： 奈良交通バス 近鉄奈良駅前バス乗り場④番 9:40 柳生・月ヶ瀬温泉行き

(持ち物) 作業のできる服装、昼食、飲み物、手袋、コップ。用具は、準備しています。

—ご参加お待ちしております!—

(連絡先) 弓場厚次

明石嘉一郎

板橋宏昌

作業報告： 11月13日(水) 晴れ 「小春日和の一日」

前日の「川上村研修旅行」の余韻さめやらぬ中の森林作業、自ずと力が入ります。里山整備の基本に立ち返り、そのうえで国有林の除伐整備を踏まえての作業になりました。穏やかな日和に恵まれ、心地よい汗を流し、林床に明るさを取り戻しながら作業を進めました。自衛隊の一行が、訓練でしょうか?東海自然歩道を通りかかり、「銃」を持っているといかめしく、びっくりします。作業は順調に進み3時に終了し解散しました。参加者、明石、板橋、小森、竹本、中畑、弓場、阿部の7名。

12月例会 「山背古道と忘年会」 日時 12月15日(月)

1. 山背古道散策 ～いにしへの史跡を巡る～

山背古道は平城山の北、城陽市から木津川市へ至る約 25km の散策道です。のどかな里山風景と縄文の昔からの歴史の跡が残ります。今回はそのうちの木津川市の山城町から木津町の 6km ほどをのんびりと歩きます。

集合 JR 棚倉駅 10時15分 解散 午後3時頃

JR 難波 9:02 (加茂行・区快) …天王寺 9:10…王寺 9:29…奈良 9:46…木津 9:53 (乗換)

JR 奈良線：奈良 9:50 発 (京都行) …木津 9:58…棚倉 10:07 着

JR 奈良線：京都 8:57 発 (奈良行) …棚倉 9:59 着

コース 棚倉駅…涌出宮 (古事記) …椿井大塚山古墳 (魏志倭人伝) …上粕環濠集落 (中世) …泉橋寺 (行基と聖武天皇) …不成柿と安福寺 (平重衡と平家物語) …木津駅

2. 忘年会 ～1年間の苦勞を忘れ去り、楽しいひと時を過ごしましょう～

時間 午後4時50分集合 5時開始～7時終了 (忘年会は雨でも行います)

場所 坐・和民奈良三条通り店 (JR 奈良駅から徒歩3分)

内容と会費 食事(2800円)+飲み放題(1200円) 合計4000円のコース

申込 只今受付中です。ならやま活動日に申込受付名簿に記入してください。または守口までeメールかファックスください。締切12月11日(木)

担当：守口

大石

<1月の予定>

1月例会「新春講演会」

日程：1月31日(土)

内容：<午前>講演会「ランドスケープについて」

大阪府立大学大学院 上甫木 昭春教授

<午後>奈良公園の巨木探索

担当：川井秀夫

阿部和生

*詳細は会報第84号(1月号)でお知らせします



<2月の予定>

2月例会<バスツアー>「琵琶湖周辺探鳥地及びザゼンソウ自生地」

日程：2月25日(水)

行き先：湖北野鳥センター・ピオトープ・ザゼンソウ自生地・今津浜

費用：3500円

担当：小田

・勝田

*詳細は会報第84号(1月号)でお知らせします

「いこま棚田クラブ」の活動日 ご案内

12月活動日：7日(日)、15日(月)、21日(日)、29(月)。

集合場所と時間：近鉄生駒駅下車、南口側ケーブル駅西隣セブンイレブン前 AM9時集合
現地まで車で移動15分。弁当・飲み物持参下さい。

*12月の作業は、石垣出し、草刈り、里山整備等です。なお、29日は大掃除・納会で
すので、新米の「おにぎり」がでますので、弁当は持参りません。

奈良・人と自然の会 11月度幹事会議事録

日時：平成20年11月7日(金) 場所：中部公民館 司会：勝田 記録：西谷

報告事項

- ① 会員在籍：105名(3名新入会)
- ② 例会：10/29 大和三山と藤原宮跡(担当：明石、林) 25名参加、資料がよかった。
- ③ 忍辱山森林整備事業：10/22 15名参加。奈良管理事務所の指導を受けた。
- ④ ならやま里山林プロジェクト：
10月定例活動日 実習生11名参加、好評であった。
10/25 佐保台元気クラブ(芋ほり) 66人参加。手順の反省会を持った。
10/26 黒髪山自然塾(芋ほり) 69人参加。竹スコップ作りも盛り上がった。
豚汁大鍋2杯、大好評でお変わり続出。「ならやま」の水、トイレ、の改善点が浮かぶ。
来年度さらに多くの青少年の来訪が見込まれ、来年はサツマイモの増植の必要あり。
A地区の樹林調査三回済。ナスクラブ6ヶ月間活動、10/31撤去。

確認事項

- ① 11～1月スケジュール
例会：12/15(月) 山背古道および忘年会(12月号に掲載)
1/31(土) 午前：新春講演会 午後：奈良公園の巨木探索
2/25(水) 湖北探鳥会とザゼンソウ(11/26下見、勝田、小田)
忍辱山：12/10(予17) 1/16(予27)
ならやま：12/6 12/11(いも煮会一車ご遠慮ください) 12/20, 1/8 1/24 1/29(予)

討議事項

- ① 会旗新調 大2、小3、ポール2本見積もり(阿部)
- ② 会員の活性化、未参加の会員のかたにも参加を呼びかけよう。会報の一層の充実。

その他

- ① ならやまコア会議：第1回11/7(16～17:30)済、第2回12/9(11～12時)
- ② HPの記事には、特に希望のない限りアドレスのみとする。
- ③ 会報1月号原稿12/14〆切

編集担当：勝田 均

TEL&FAX：

【当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません】

奈良・人と自然の会事務所

会長 阿部 和生